

道路の除雪に協力してください！

今年も間もなく雪の降る季節を迎えます。市では、道路の確保を優先するため、幹線道路や歩道をあらかじめ除雪路線と定め、積雪深が15センチメートル以上になると早朝から除雪作業を行います。除雪作業をスムーズに行うために、次のことに協力してください。

お知らせとお願い

■生活道路や家周辺の除雪

除雪路線以外の生活道路や家周辺は、地域、近隣の皆さんで協力して除雪してください。

■道路への排雪禁止

家周辺の雪を道路へ捨てると、交通の妨げとなり危険ですので、道路へ雪を捨てないでください。

また、屋根の雪下ろしも道路交通の妨げにならないよう



▲幹線道路の除雪をする除雪車

に行ってください。

■路上駐車禁止



▲除雪作業の妨げとなる路上駐車

路上駐車は除雪作業の妨げとなりますので、絶対に行わないでください。路上駐車がある場合、車両を傷付ける危険性が高いため、その路線の除雪ができなくなります。さらに除雪作業の進行が遅れる原因となり、皆さんの迷惑になります。

また、道路側に置かれている植木鉢やごみ箱、看板など

は、除雪作業で破損する恐れがありますので、撤去してください。

■目印ポールなどの設置

ごみステーションなど路上から撤去したり移動できない工作物は、積雪時にも位置が分かるよう、目印となるポールや看板などを設置してください。

■排雪場所(豊岡地域のみ)

雪は、必ず次の2カ所に捨ててください。

- ①市役所城南町仮庁舎(豊岡健康福祉センター)付近「あやめ橋付近排雪場」(4トン車までの小型車のみ)
- ②堀川橋東詰付近「六方排水機場前河川敷排雪場」

皆さんの協力を

お願いします

除雪作業Q&A

Q 除雪には、どのくらいの費用が掛かっているの？

A 昨年度は30年ぶりの豪



▲幹線道路の除雪をするロータリー車

雪で、除雪作業費用は約4億5千万円でした。

市が1日で除雪作業を行う距離は、約730キロメートルで、これは豊岡市から岩手県花巻市までの直線距離に相当します。これほど長大な除雪路線を、市と委託業者の除雪機械約160台で対応しています。

Q 除雪作業を行う条件は？

A 市では、12月1日から3月31日までを除雪期間と定めています。積雪深が15センチメートル以上になると除雪作業を開始し、一部の地域を除き、おおむね午前8時30分までに作業を終えるようにしています。

Q 除雪作業が遅れることがありますか？

A なるべく早く除雪作業を終えるよう努めています。市内各地の積雪の状況や路上駐車などの影響で、やむ

を得ず遅れる場合があります。

また、断続的に雪が降っている場合は、再度の除雪が必要となるなど、さまざまな事態に対応することがありますので、理解をお願いします。

Q 道路除雪によって玄関前に雪の塊ができて困る！

A 迷惑をお掛けする場合がありますが、道路交通の確保を最優先に除雪作業を行っていただきますので、理解をお願いします。



▲幹線道路の除雪をする除雪車

※除雪作業に関する問合せは、各区長さんを通じてお願いします。

《問合せ》建設課

☎23-11115または各総合支所地域振興課

《国道・県道に関する問合せ》
但馬県民局豊岡土木事務所
道路保全課 ☎26-3753

景観シリーズ4

豊岡の風景の見方

③ 景観の意味を伝える記憶や物語



私たちは先人から受け継いだ宝物「地域固有の素晴らしい風景」を、大切に守り育てていかなければなりません。

豊岡の景観について、隔月で掲載します。

《問合せ》都市整備課景観政策係 ☎ 23-11712

「豊岡らしい風景」は、①景観の基盤となる地形風土②景観を形づくる暮らしと生業③景観の意味を伝える記憶や物語—の三つの見方から捉えることができます。

今回は、景観の意味を伝える記憶や物語を掲載します。

景観の意味を伝える

記憶や物語
〜人々の記憶に残る風景〜

景観は、基盤となる「地理的、自然的要素」と、人々がその中で暮らし築いてきた歴史や伝統、文化、生業などの「生活的要素」が、密接に関わりながら重層的に形づくられるものです。このことを「豊岡、風景のものがたり」として捉え、私たちの記憶に残る豊岡らしい風景を、みんなの資産として大切に守り育てる



▲幻想的な但馬富士(三開山)

必要があります。

《神話からみる

風景の成り立ち》

豊岡の地形の成り立ちを説明する「天日槍の国開き伝説」は有名です。天日槍が村人たちの協力のもと、長い年月をかけ瀬戸の大岩を切り開いて水を海へ流し出すと、大地が顔を出し、今の豊岡が形づくられたとされています。

《小学校の校歌にみる風景》

校歌の中には、学校の歴史、校訓などとともに、山や川、田園など、地域が大切にしている多くの風景が盛り込まれています。校歌を歌うことで、普段見る山や川が特別なものとなり、地域自慢の風景であるということを再認識できます。校歌に謳われている山や川などの風景は、人々の子どもころからの記憶であり、変えてはならない風景です。



▲円山川の朝霧に幾重にも重なる山並み

《コウノトリと共に暮らす

風景》

円山川と出石川が合流する

豊岡盆地の南端付近から河口までの約16キロメートルは、勾配がほとんどないため低湿地状の土地が多くあります。湿地で餌を採るコウノトリの



▲多様な生きものが生き生き暮らす風景

生息にも適した環境が生み出され、かつて人々は但馬牛やオオサンショウウオなどととにも悠然と暮らしていました。近年は、ビオトープ水田や「コウノトリ育む農法」などの環境創造型農業が進められ、田んぼにはトンボやドジョウなど多様な生き物が生息し、かつてのように自然と共生する人々の暮らしや田園の中で子どもたちの遊ぶ風景が戻ってきました。

《地域の風土を支える歴史・

伝統・文化の風景》

豊岡の各地には祭りなどさ

まざまな伝統行事が多く残っており、先人から引き継がれ現在もなお地域の生活の一部となっているものも多くあります。本市の祭りは、特産「杞柳・かばん産業」の守護神である柳の宮のまつり、城崎温泉のだんじり祭り、江戸時代の参勤交代の様子を伝える出石お城まつりなどが有名です。また、長さ約1・5メートルの大わらじと大ぞうりが神木に神の履物として奉納され、



▲太刀振り(但東町赤野)

無病息災を願う日高町田ノ口の「賽の神まつり」や、但東町赤野の「太刀振り」など、各区独特の行事が多く継承されており、行事当日は古来から伝わる風景が見られます。

◆次回(1月25日号)は、「風景づくりの基本的な考え方」を掲載します。